

## 城坤コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和 7 年 10 月 21 日（火） 午後 10 時 00 分～11 時 30 分

場 所：城坤コミュニティセンター

参加者：16 名

市出席者：市長、地域担当職員【満尾（人権課）、岡村（デジタル活用推進課）、秘書課 森本

### 1. あいさつ

（副会長）

本日はお忙しい中お集まりいただきお礼申し上げます。

忌憚のない話ができたらと思っているのでよろしくお願ひ申し上げます。

（市長）

まずは、私ごとであるが、今年の春から 2 期目の任期に入った。これもひとえに、皆さまのご支援のおかげである。心より感謝申し上げます。これからの 4 年間も、元気なまちづくりに全力で取り組んでまいらる。

さて、最近の情勢や課題について、少しだけお話しさせていただく。

ご存じの通り、日本全体が本格的な人口減少時代に突入している。香川県内でも、丸亀市、宇多津町、高松市は微減にとどまっているが、それ以外の地域では急速に人口が減少しており、今後はさらに進むと予測されている。そんな中で、どうやって「元気なまち」をつくっていくかが大きなテーマである。

今年、私が特にうれしかった出来事の一つに、さぬき広島地区で約 16 年ぶりに小中学校が再開されたことがある。移住者のご家族によって、小学生 3 人、中学生 1 人が入学し、学校が再校した。先生は 11 人いる。秋にはさらに中学生が 1 人転校してきて、現在は中学生 2 人、小学生 3 人となっている。来年以降も移住の予定があると聞いており、今後は楽しみである。

丸亀市全体でも、現在、移住者の方々が多く、人口の減少を緩やかにしている。大まかな人数でいうと出生数は現在年間 700 人台で、死亡数は 1200～1500 人。自然減は 700～800 人であるが、移住者の増加により、全体としては「微減」にとどまっている。

また、今年 7 月には総合運動公園でプロ野球の「フレッシュオールスターゲーム」が開催され、約 8900 人の観客が訪れ、大変盛り上がった。この球場は、地域からプロ野球選手を出したいというコンセプトでつくったが、過去 10 年で 8 人のプロ野球選手が誕生しており、地域の誇りとなっている。

さらに、丸亀市はオランダの「グリーン・ディスティネーションズ」が選ぶ「持続可能

な観光地トップ100」に、今年10月、2回目の選出を受けた。1回目は、伝統工芸品を守っていくうちわマイスター制度。今回は、循環型経済の観光地（レオマの食品廃棄物の堆肥化と農業利用、万象園の松葉を活用したレモン栽培など）が評価されたものである。

11月には「うどん祭り」も開催され、芸能人の上戸彩さんをはじめ、多くの方々が参加予定である。丸亀の魅力を全国に発信する良い機会となる。

一方で、課題もある。

特に気候変動による集中豪雨が増え、排水対策が急務となっている。今年春には「総合排水計画」が完成し、今後は県や国と連携して整備を進めいく。

また、学校施設の老朽化も深刻である。丸亀市では、築50年を超える建物が増え、建て替えや大規模改修が必要になっている。今年度だけでも14校に約180億円の予算を計上している。建築費はコロナ前の倍近くに膨れ上がっており、財源の確保が大きな課題である。

それでも、給食費の無償化や18歳までの医療費無償化など、市民の皆さまに喜んでいただける施策も進めてきた。これからも、皆さまのご指導をいただきながら、住みやすいまちづくりに全力で取り組んでいくので、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

（会長）

水害について、特に新田、今津、津森周辺では、雨が降るたびに生活に大きな影響が出ている。先日も新聞に掲載されていたが、10ヵ年計画で排水対策が進められるとのことで、地域としても大きな期待を寄せている。

実際に、先日、新田町を建設課の方々に現地を見ていただいたが、現状は「ちょっとした対策」では解決できないほど深刻である。やはり、他の地域と比べても、水害リスクが高い地域であるという認識を持っているので、今日はそのあたりを話したい。

また、もう一つお願いしたいのが「避難所の整備」。城坤地区は津波や水害などのリスクがあるにもかかわらず、人口に対して避難所の数が非常に少ないのが現状である。現在、自治会でアンケートを実施しており、地域の実情を把握しようとしている。

例えば、城坤小学校には多くの人が避難することが想定されるが、実際にその人数を収容できるのか不安がある。

そんな中、城南地域にある、かつての給食センター跡地が現在売りに出されていると聞いた。あの場所は今津や新田よりも水害リスクが低く、もし可能であれば、あそこに大型の避難所を整備していただけないかと考えている。その施設には、災害時に必要な食料や物資を一括で備蓄できるようにし、現在のように各小学校に分散して置かれている備蓄品を集約する形が望ましいと思う。日常時は地域の多目的施設として活用し、災害時には避難所として機能するような設計が理想である。

他のまちでも、こうした「平時と災害時の両方に対応できる施設」の整備が進んでいると聞いている。丸亀市でも、ぜひそうした取り組みを検討していただければと思う。避難所がバラバラに点在しているので、地域の実情に合った、安心して避難できる体制づくり

を、ぜひお願いしたいと思う。

## 2. 意見交換

(所長)

大雨による浸水災害について、津森町団地自治会、新田青葉団地自治会、今津北部自治会から。

(男性1)

津森町団地は土地が低く、年に2~3回は大雨などの時に道路が冠水し、一部は車庫の中まで入り込んでくる。その原因は、団地の東側を流れる水路から水が団地の排水口を伝って逆流し、団地内の側溝からあふれ出してくるためである。7~8年前まではこういうことはなかったが、周囲の田が宅地化し、水の行き場所なくなったことが一つの原因かもしれない。

道路が冠水するのは大雨の時ばかりではない。田に水を入れるために団地近くの水門を閉めると、晴れた日にも水が逆流し冠水する。米作りは重要であるが、田に水を入れるたびに団地内に水があふれるのは大変困る。

市でも、西汐入川に大規模なポンプ場を設置するなどの取り組みをしてくださっているが、津森町団地にも何らかの対策をお願いできたらと思う。例えば、排水口に弁のようなものを取り付けて、水路が増水したときに排水口を閉じるようにすればどうか。

なお、本件に関しては、9月10日に下水道課に状況を説明している。

(男性2)

3年前に新田・田村地区では農業水路の氾濫対策（嵩上げ・拡張・バイパス）が行われたことで、水害は大きく改善した。心より感謝申し上げます。

しかし、新田・田村・津森地区は、国道33号・産業道路・県道205号に囲まれた地形のため、雨水の排水が集中しやすい状況にある。特に、新田町長池道下の新田青葉団地は農業水路および旧「長池」に隣接し、低地に位置しているため、大雨時には田村地区からの雨水が農業水路（長池）へ流入し、水路の氾濫によって団地内に濁流が流れ込む危険がある。

実際に、台風5号（9月5日）の際には農業水路（長池）、新田青葉団地内が浸水した。さらに田村第2団地や津森地区でも冠水被害が発生している。

このような現状を踏まえ、10月2日に市役所関係部局と自治会役員を含む総勢13名で現地説明会を行い、課題を共有した。

農業水路（長池）に排水する水量を現行容量の20%程度軽減できるよう、大型水路の整備またはバイパス水路の新設をお願いする。

あわせて、昨年度も要望したが、汐入川末端の水門にライブカメラを設置してほしい。

(男性3)

自治会長は欠席であるが、今津北部自治会から。農地の市街化が進み、雨による冠水が散見されるので対策をお願いする。場所はローソンの北側。

(市長)

津森団地について、農林水産課の回答は、水門操作による冠水については、冠水するほどの水位まで堰(せき)上げ(あげ)する必要性を水利組合の土地改良区と協議しているが、水門の調整を細かくする、下流に流れるようにするということを検討していく。

また、下水道課からの回答では、ご相談のあった箇所は、現地の確認をしたところであった。今後、相談内容を踏まえ、関係部局と情報共有し、対策についても強く指示していく。

新田青葉団地について、下水道課の回答は、令和3年、4年に発生した洪水などにより、関係部局において対策に取り組んでいる。引き続き、提案のあった内容などについて、関係部局と情報共有し、対策を検討していく。

農林水産課の回答は、10月2日に現地確認をした危機管理課、建設課、下水道課とともに対策について取り組んでいく。

西汐入川のかき上げについては何度も県に要望を出してきた。県からは「かき上げはすでに完了した」との説明があったが、現地の状況を見る限り、まだ十分ではない。実際に県の職員にも現地を確認してもらい、「これで終了と言われても納得できない」と強く訴えた。地元住民からも多くの意見が寄せられており、県としても再度対応を検討してくれることになっている。

丸亀市全体の排水対策として「総合排水計画」を策定した。これは危機管理課が中心となって2年かけて作成したもので、当初は1年で完成予定であったが、議会との調整もあり時間がかかった。この計画をもとに、県や国土交通省とも協議を進めており、協力体制も整いつつあるが、多大な予算が必要となる。

西汐入川の大形ポンプにより、南側の地区では冠水面積が4分の1~5分の1程度に減少するというシミュレーション結果も出ている。

北部自治会への回答については、都市計画法に基づく開発許可が進む中で、冠水するところが増えてきた。雨の降り方が変化し、短時間に集中して大量の雨が降るようになっていく。これにより、かつて農地だった場所が宅地化され、水の逃げ場が減ってしまった。

城東小学校の東側では簡易な調整池を作る試みをしている。

今後は、開発事業者に対して水の逃げ場(貯水施設)の設置を義務づけるよう、国に対して法改正の要望を出す予定である。市としても独自のルールを検討しており、開発によって水害リスクが高まらないよう、しっかりと協議を進めていきたい。

(男性2)

先代池が決壊した場合のシミュレーションを見ると、10万トンの水が流れ出す可能性があり、私たちの団地の方へ流れ込み、被害が発生する。

実際に33号線沿いを歩いて確認したところ、道路の下には大きな土管が設置されており、

その水が第2団地方面へ流れてきて長池に集まり、氾濫する。

排水ポンプやバイパスを設置してほしい。

(市長)

しっかり取り組んでまいらる。

(所長)

職員に現地を一緒に見ていただいた。非常に前向きな意見をいただいているので、よろしく願います。

(市長)

私の要望に対して知事は前向きであるが、いつになるかは。

(男性4)

団地などを開発する際に、建設業者は田畑の水路を無視するケースも見受けられる。こうした状況に対して、十分な警戒が必要である。

(男性5)

H30年に西汐入川の西側の市所有の土地について、売却して福祉施設を建設する話があり、そうすれば水が住宅に流れてくる心配があった。その後話がないが、今後どういったことに活用していくのか。また、高潮の時ポンプで上げても浸水するので、総合排水計画の中で検討を。

(市長)

土地については、率直に申し上げる。最終的に私の判断としては、「この土地は塩漬けにしよう」と決めた。つまり、売却はやめるということである。

市が使っていない土地を持ち続けることは、市民にとってもマイナスであり、議会からも「使わない土地は売却すべきだ」という意見が継続的に出されている。実際、市では使い道のない土地を順次売却する方針を取っている。

しかし、この土地については、過去に保育施設の建設予定があったものの、計画が棚上げになり、最終的に塩漬けとした。塩漬けにしたとはいえ、将来的には何らかの形で活用を検討する必要がある。市長として、現時点では塩漬けの状態であるが、大きな改善があれば再び動き出す可能性もある。

また、ポンプについて、満潮時には排水が難しいが、干潮時には水を流すことが可能である。1日24時間のうち、半分は排水可能な時間帯であるので、冠水地域の水を効率的に処理することができる。この排水対策には約14億円の費用がかかっており、シミュレーションでは冠水面積が5分の1に減少するという結果も出ている。満潮時には限界があるが、それ以外の時間帯では非常に有効な対策である。

(女性1)

答えは、そのままの状態でおいておくということか。

(市長)

はい。

(女性 1)

塩水が流れ込む場所なので、保育所やコミュニティなどを建設する場所ではない。

(女性 2)

できれば、調整池などを設けて水を一時的にためることで、大雨時の被害を軽減できるようにしてほしい。

(男性 6)

近所に空き家、空き地が荒れた状態で放置されている。

隣の家は 50 年くらい前から空き家で、以前市役所に相談に行ったときは、相手の連絡先を教えてくれたので連絡を取り、県外の方であったが、たまに見に来てくれたりシルバーさんに頼んで草刈りをしてくれていた。しかし、その方が亡くなったらしくほったらかしが続く、家は倒れそう（倒れたときには近所に被害がありそう）、草、木は伸び放題、犬、猫が住み着いていた時もある。

その他にも、近くに親戚がいるにもかかわらず、荒れ放題の空き家や空き地があり、そこにごみを捨てられる、木が道にはみ出す、電線にからみつく、危険な虫、小動物などが住み着いている可能性があり、とても怖い。

隣の家は、何度か市役所に相談に行ったためか、最近やっと頼まれたという不動産屋が見に来ていた。言いに行かなければダメだと思った。

行政の早急な対策を望む。荒地に対しては税金を上げるという話も聞いたが、もっと強く指導、罰則を与えるなど、空き家、空き地対策をお願いします。

(男性 7)

一人暮らしの方が亡くなられたか施設に入っており、空き地になっている。その場所に、いろいろなゴミが捨てられているのを見かけるようになった。

持ち主と思われる方の親戚に「ゴミ捨て場のようにしているので、市役所や警察に相談した方がいいのでは」と言うと、親戚付き合いを全くしていない方で、娘さんが一人いるようであるが、結婚されていて連絡先も分からないとのことであった。

周囲の家は少なく、場所は外浜団地の 1 号棟の真ん中あたり、南側に抜ける細い道沿い。現在は誰も住んでいないのに、ゴミだけがどんどん捨てられている状況である。

どこまで地域として口を出していいのか分からず、市役所で対策をお願いします。塩屋町 2 丁目 16 番地 19 あたり。

(市長)

持ち主を確認して対応する。

(男性 7)

素人考えではあるが、1 つお願いがある。金倉川の海側には水門がない。金倉川では、雨が降ってもある程度の高さまで水が流れる。しかし、西汐入川では、県が決めた時間に水門を閉めると、次の開門時間まで開けることができず、雨が降っても水が流れずに溜まってしまう。そのため、同じように雨が降っても、金倉川では排水されるのに対し、西汐入

川では水門が閉じられているために水が逆流し、溢れそうになるという状況が生まれている。

現在は満潮時の海水位や降雨量などをカメラやセンサーで監視しているはずであるので、県には水門の調整について柔軟な運用を検討していただきたいと思う。

(市長)

いろいろなところから、どうして水門を開けないのかと意見があるので、県と協議をする。

(市長)

空き地の管理不全に関する相談があった場合、丸亀市まちをきれいにする条例に基づき現地確認を行い、所有者が特定される場合には口頭又は文書による注意喚起を行っている。相談があった場合は、できるだけ早急に対応するよう努めている。しかし、個人の土地の管理に対して指導や罰則などについては、慎重な対応が求められる。

空き家、空き地の放置は地域の安全や景観に悪影響を及ぼすため、今後とも地域の声を踏まえながら、所有者への働きかけを強化し、引き続き適正な管理を促していく。

非常に危険な空き家については、丸亀市は 2 件、行政代執行を行っている。そうならないために、所有者への働きかけをより一層強化していく。

法に基づいた措置も効果的で、固定資産税が増額されることもある。引き続き、管理不全の空き家が早期に解決するよう空き家対策に取り組んでいく。

先ほど言われた空き家についても、引き続き所有者に強く言っていく。

(女性 1)

現在、空き家の問題が深刻化している。相続人が遠方に住んでいたりして、管理が行き届かないケースが増えている。所有者が亡くなり、相続人も不明なまま放置されている空き家もある。そのような土地は市の所有物にすることは可能か。

(市長)

相続人のいない土地は国のものになるが、だいたい相続人がいる。

現在、市が把握している空き家は約 3,000 件。その中でも周囲に迷惑をかけているケースが増加している。丸亀市では、これまでに代執行によって空き家を解体した事例が 2 件ある。これは所有者や相続人が存在していても、建物が非常に危険な状態であったため、市が税金を使って解体したものである。ただし、1 件あたり数百万円の費用がかかるため、すべての空き家に対して同様の対応をするのは現実的ではない。

市としても、所有者や相続人に対して粘り強く対応を求めているが、なかなか進まないのが実情である。

現行の法律や条例では、空き家の所有者に対して強制力を持って対応を求めるのが難しい状況。条例では「こういうルールがあります」と伝えることはできるが、罰則を伴う強制力はない。そのため、国レベルでより厳しい法律の整備を望む。

(女性 1)

何年も放置している場合は国のものになるようにすればよい。

(市長)

国のものになると、固定資産税が入ってこなくなる。活用できる所であればよいがそうでない場合がほとんどである。

(男性 3)

空き家を解体する際の補助率をあげればよいと思う。よそでは 9 割補助があったところもあったような。

(市長)

自分も処分したがかなりかかった。

(所長)

本人は欠席であるが、次の質問。天満町 2 丁目、中讃ケーブルビルの前の交差点は夕方になると右折待ち車両で渋滞している。黄色信号でも直進車が入ってくるので、進めない。

信号機に右折の矢印の信号を追加する、信号が切り替わる間隔を現在の半分くらいにするなど渋滞解消対策をお願いする。

(市長)

建設課からの回答は、ご要望の箇所は、主要地方道丸亀詫間豊浜線と市道幸町中津線との交差点となり、道路は香川県が信号機は香川県警がそれぞれ管理している。要望については、香川県及び香川県警に伝え済である。

右折レーンの増については別の個所で検討しているところがあるそうだ。

信号の間隔は最善と思われる間隔となっている。間隔を短くしても解消にはならないが、引き続き、警察には伝えていく。

(所長)

他にも質問はあったが、時間の都合上、回答については後日文章でお願いする。

(外浜中部自治会長 三谷さん)

外浜団地は高齢者の方々が多く住む地域であるが、バス停が近くにないため移動が非常に不便になっている。お出かけ便だけでは足りず免許の返納ができない。シルバー人材センター辺りにぐるっとバスの停留所を設置してほしい。

また、トライアルができて便利にはなったが、前の道がとても渋滞する。文化会館近くに横断歩道はあるものの、信号機が設置されておらず、危険な状況である。文化会館の前に横断歩道はあるが信号はないので感知信号機の設置を要望する。

(市長)

感知信号については警察に伝える。

コミュニティバスについては、担当課に伝える。

(会長)

直接話を聞いてもらえる機会はとてもありがたい。要望については、よろしく願い申し上げます。

(市長)

市としては、これらの要望をしっかり受け止め、すぐに実現できることばかりではないが、職員と連携して真剣に取り組んでいく。今後ともよろしくお願い申し上げます。